

令和7年度 関西福祉科学大学高等学校 学校運営計画及び学校評価

1 めざす人物像

建学の精神「感恩」と教学理念「夢と志」のもと、豊かな心と情熱をもって、人の幸せを願い、社会に貢献できる人物を育成する

2 中期的目標

1. 教学及び学生支援（「夢と志」を育み、生徒の「やる気と元気」を引き出す。）

(1)卒業率93%以上

- ・わかる授業ときめ細やかな学習指導の実践
- ・個人面談の早期実施(4月・10月実施)
- ・不登校生徒への対応
- ・学習支援

(2)夢と志の保持率 100%

- ・高校生生活満足度調査の実施
- ・行事やクラブ活動などの体験・経験を通じて「夢と志」を育む
- ・D&W ABC ACTION の具体的な取り組み

(3)進路づくり満足度 100%

- ・K's compass を活用し、進路意識を向上
- ・4コースの取り組みに対する総括と検討

2. 学生・生徒・園児募集（生徒一人ひとりを大切にしっかりと関わる）

(1)生徒在校総数1,000人達成推進(令和11年度 入学生徒350名の入学を目指す)

- ・「在校生の信頼」を最大限に活用する。在校生の周囲にいる中学生を入学につなげるため、目の前の在校生にしっかりと関わり満足度を上げる。
- ・D&W ABC ACTION の具体的な取り組み
- ・説明会等の参加者数 3000 名

(2)本校の魅力を直に伝える情報発信(HPや Instagram の充実などSNSの最大限の活用)

- ・学年・コース・分掌が、高校生活の様子などの投稿素材(写真)をタイムリーに提供する

3. 施設・設備等の充実 愛用

(1)生徒本位の施設・設備の整備と愛用(遊休施設活用)

- ・「Tama Square」でのクラブ発表などを促進
- ・ICT 環境整備

(2)配慮を要する生徒支援体制の充実

- ・障害者差別解消法の尊重

4. 地域共生 社会に愛され成長する学園

(1)地域連携活動の実践

- ・地域連携公認プログラムの推進
- ・総合的な探究の時間での取組みを推進
- ・地域主催行事への積極参加

5. 学園総合力の向上（学園ファミリー意識） 各校園の相互協力 尊重（職員 学生 生徒 園児）

(1)各校園との連携推進

(2)内部進学の実現（学年 30%以上目標）

3 本年度の取組内容及び自己評価

	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	学校自己評価	学校関係者 評価委員会 の評価
1 教学及び学生支援（夢と志を育み、生徒の「やる気」を引き出す。）	(1)卒業率93%以上		・卒業率(93%以上)	R8 年 3 月卒業生の卒業率 87.0%(✕) (新型コロナにより「学校に行かないこと」への心理的な抵抗感の低下が、転学や中途退学の増加に一定の影響を与えている可能性がある)	2 年 連 続 の 卒 業 率 低 下 に 危 惧 (✕)
	・わかる授業ときめ細やかな学習指導の実践	・授業アンケートを実施(7 月:1 学期期末考査後実施)の結果を基に各教員、教科内で検証「わかる授業」の実践に取組み、教員自身による結果分析・課題の確認、改善実施。 課題のある教員に対する改善対応	・授業アンケートの結果 (平均80点以上)	・授業アンケートでの平均が79.4点 (昨年度78.9点)平均値は微増した。わかる授業への追求のため、更なる教材研究が必要。(△)	わかる授業の追求が必要(△)
		・iPad を活用した授業の推進	・教員用の iPad のスキル	・教員用の iPad のスキルアップのため、NTT docomo による、スキルアップ講座(iPad 寺子屋)を実施。(△)	タブレットの活用方法に期待する。 (△)
	・個人面談の早期実施 (4 月・10 月実施)	・年度当初と中間時期に生徒との面談を実施 (クラスの人間関係の把握)	・興味関心・学習目標・課題等、生徒の状況を把握、高校生活上の問題点や進路等の情報を教員間で共有	・転退学要因が見られる生徒に対して、保護者との密な連携に努めたが、転退学者の減少とまではいかなかった(✕)	学校の取り組み効果を期待する。 (✕)
	・不登校生徒への対応	・具体的支援の実施、別室対応の規定化検討	・実施・検討の状況	・不登校生徒への具体的支援として起立性調節障害、難病(国の指定)等について対応策を実施。(○)	学校が対応していることを評価する (○)
	・学習支援	・K's up!の内容検討	・K's up!の内容充実、見直し等の有無、自主学習促進とサポート体制の充実	・3年 SⅡコース 8 月特別学習プログラムを実施し、学習サポートに力をいれる(○) K's up!に福祉栄養学科 とのコラボ講座を実施。(○)	色々なバリエーションがあることを評価する(○)
	(2)夢と志の保持率 100%			・夢と志の保持率55. 9%(1 年49. 5 %, 2年53. 9 %,3年64. 3%) (✕) まだまだ目標値と乖離があるので、達成に向けて取り組む。	これからに期待(✕)
	・高校生生活満足度調査の実施	・高校生生活満足度調査(10 月:2 学期中間考査後実施)の実施(夢と志の保持率の調査)	・課題の抽出・共有、対応、検討の状況 (夢と志の保持率 100%)	・高校生生活満足度調査を実施・分析のうえ、職員会議で説明を行い、分掌・コース・担任にて課題を共有し、必要な対応に取り組んだ。(○)	本当に様々な部分での対応を評価する(○)
	・行事やクラブ活動などの体験・経験を通じて「夢と志」を育む	・学校行事の見直しや総合的な探究の時間の充実を図る	・対応の状況	・1、2 年生進学コースで体験型学習(15 講座)を実施し、総合的な探究の時間の充実を図った。(○) ・HP・インスタグラム・入試説明会等でクラブ活動、大会結果などを PR し、またクラブ体験で多くの中学生にクラブに馴染んでもらい、クラブ加入率向上(昨年度 49.7%→R7 年度・56.4%) (○)	非常に興味がある(○) クラブ専用のパンフレットを評価する (○)
	・D&W ABC ACTION の具体的な取り組み	A:「夢と志」の教学姿勢を実践する ・全教職員が、始業式や終業式、SHR、LHR 等で教学理念「夢と志」および教学姿勢(イメージツリー)について説明 B:「夢と志」の教学姿勢を本物にする ・教職員が生徒に対して「笑顔であいさつ」を実践 ・登下校時に「あいさつ運動」を実施 ・高校の「SHIKAKE」を充実させ、また、大短高幼の連携により「SHIKAKE」を創出	・D&W ABC Actionの理解・共感・実践の状況 ・「夢と志」の教学姿勢を本物にする(学園の学風としていく) ・高校および高大短幼コラボの「SHIKAKE」の検討・実施の状況	・学校長が各学期での始業式・終業式で講話を行い、全担任が LHR で「夢と志」および「イメージツリー」についての講話を行った。(○) ・生徒会の生徒にも協力してもらいながら、笑顔で挨拶を呼びかけていった。その結果、全体として生徒からの挨拶が増加し、外部の方からも評価を受けた。(○) ・福祉栄養学科とのコラボ授業、幼稚園への放課後ボランティアなど大短高幼の連携による「SHIKAKE」を実施。(○)	教学理念の「夢と志」の思いが素晴らしい(○) あいさつのあふれる学校に期待する(○) わくわくする SHIKAKE を評価する (○)
	(3)進路づくり満足度 100%				
	・K's compass を活用し、進路意識を向上	・ K's compass を活用して15年先の未来像を見据えた進路づくりを重視	・対応の状況	・K's compass を活用し、4・6・10月には進路ガイダンスを実施。生徒に15年後の未来像や、文理選択に至るまでの過程を説明をした。(○)	ミスマッチをなくす上でも進路づくりに重点をおくことを評価する(○)
	・4 コースの取り組みに対する総括と検討	・各コースの取り組み、進路実績等の振り返り、課題の抽出・対応の検討・実施	・4 コースの取り組みの現状の把握・課題・対応策の検討・実施の状況	・各コースの総合的な探究の時間の見直しおよび改善を図った。(○) (R8 年度より朝学習として「マナトレ」(1 年進学)「キャリアナビ」(1 年)を導入し、更なる充実を計画) ・令和8年度より各コースのさらなる改善のため、模試分析係を新設。	発展的に今のニーズにあった改善・検討を期待する(○)

2. 学生・生徒・園児募集(生徒一人ひとりを大切にしっかりと関わる)	(1)入学生徒350名 (令和11年度 入学生徒350名の入学を目指す)	・学校行事の見直しや総合的な探究の時間の充実を図る。	・新入生人数の動向 (350 名以上)	・令和7年4月の生徒総数は949名 新入生324名(△) ※令和8年度4月入学生302名(△)	こどもの数 が減る中、本 当に健闘さ れている (△)
	・「在校生の信頼」を最大 限に活用する。在校生 の周囲にいる中学生を 入学につなげるため、目 の前の在校生にしっかりと 関わり満足度を上げる。	・C:夢と志の教学姿勢を誇りと自信をもって発信し、学生、 生徒、園児の心を掴む。 (伝えに行つて 出会つて 育てる 早くから)	・高校生活満足度調査の 実施・分析の状況	・高校生活満足度調査の結果、満足度の低 かった女子夏服の完全リニューアルを令和9年 度入学生より行う(○)	調査・検討を し、実行をさ れている (○)
	・D&W ABC ACTION の具体的な取り組み		・D&W ABC ACTION の理解・共感・実践の状 況	・中学校・塾訪問を積極的に行い、関係強 化・信頼構築を図つた(○) ・中学生バレーボール大会、各スポーツ教 室を通じて中学生、小学生の心を掴む 「SHIKAKE」を実践(○)	生徒の心を 掴み、その試 みを評価す る(○)
	(2)説明会等の参加者数 3000 名	・8回の説明会・体験入学の内容に変化をつける(毎回参加 したら毎回違う内容であることでリピーターを増やす)	・説明会・体験入学の実施 内容の検討、ニーズ確認 のためのアンケート実施 検討の状況	・中学生の高校訪問8校、中学校PTA高 校訪問2校、中学校への出前授業30回 塾主催ブース形式説明会19回、教育後援 会15校実施(○)	先生方が 足繁く外に 出向いてい ることを評 価する(○)
3 施設・設備等の充実 愛用	(3)Instagram等SNS の活用	・入試広報部から教員あてに素材提供の協力を要請 ・各教員からも投稿素材共有を推進	・SNS 活用の重要性に関 する教職員の意識醸成	・本校の教育活動を理解していただくため にInstagramやホームページの更新を 例年よりも多く実施、内容充実も図つた。 ・分掌上の係教員だけではなく、学年にも 担当教員を当てて連携を深めた(○)	こどもの数 が減る中、 3000名の 目標が妥当 かはわかり ませんが、よ く努力され ている(△)
	・学年・コース・分掌が、高 校生活の様子などの投 稿素材(写真)をタイムリ ーに提供する				インスタは HP と違いス マホなどに 通知される ので有効で ある(○)
	(1)生徒本位の施設・設 備の整備と愛用(遊休 施設活用)	・「Tama Square」でのクラブ発表などを促進。	・活用の状況	・手作りの巨大入学許可書を作成。入学式 後、たくさんの新入生と保護者が記念撮 影に利用。吹奏楽部の「たそがれコンサ ート」、ダンス部・和太鼓部の「ゲリラライブ」 を複数回実施。(○)	活用を評価 する(○)
	(2)配慮を要する生徒支 援体制の充実 ・障害者差別解消法の尊 重	・ICT 環境の整備 ・特別支援コーディネーターを中心に、合理的配慮が必要な 生徒への個別対応を行う。	・実施の状況 ・対応の状況	・情報処理室・LL 教室のパソコン更新(○) ・合理的な配慮や支援が必要な生徒には支 援計画を作成し、保護者とも連携を取つ た対応を行っている。(○)	環境がよく 整備されて いる(○) 今後も合理 的配慮の観 点に期待す る(○)
4 地域共生 社会に 愛され 成長する学園	(1)地域連携活動の実践	・生徒会美化委員会が主催する、本校の伝統である「美 化ボランティア」清掃活動を今年度も実施する。 ・地域と連携し、青少年講座・スポーツ教室を実施。 ・歴史・科学の青少年講座を実施する。 ・卓球・バレーボール・サッカーのスポーツ教室を実施。 ・地域の市民フェスティバルに参加する。 ・バスケットボールの U-15のクラブチーム対抗の交流戦を 企画し、開催する。	・計画通り実施する。 ・実施の状況や参加の状 況 ・実施の状況	・6月に美化ボランティアを実施。218名の 生徒が参加し清掃活動に取り組んだ(○) ・地域と連携した青少年講座やスポーツ講 座は予定通り実施。「柏原市民フェスタ」 にダンス部が参加。(○) ・U-15 バスケット対抗戦「D&W Cup バ スケットボール大会」を実施。(○)	地域に貢献 している (○) 先生だけ でなく生徒 も地域に貢 献している ことを評価 する(○) 新しい企画 を評価する (○)
	(1)各校園との連携推 進	・学園内大学・短期大学入試ガイダンスを実施する。 ・PTA 主催併設大学・短大見学会を実施する。 ・体験入学での大学、短大講座 ・文化祭における大学・短大の紹介ブースの開設 ・保育進学コースの短大・幼稚園との連携 など、担当者間での連携を密にする。	・実施内容と生徒の満足 度を基準とする。	・併設大学・短大のみのガイダンスを実施。 ・高大連携授業において、秋学期で2名の 生徒が単位を取得した(○) ・文化祭で大学・短大ブースを開設。在校生 だけでなく、たくさんの保護者にも学校 紹介する機会となった(○) ・福祉栄養学科とのコラボ授業、幼稚園へ の放課後ボランティア、幼稚園の年長組 の七夕コンサートの参加など大短高幼の 連携により「SHIKAKE」を実施(○)	併設の大学・ 短大のこ とを理解し ていただく よい機会に なる(○)
	(2)内部進学 of 充実(学 年30%以上目標)	・日常の教育活動を通して、本学園のファンを増やす。 ・学園内大学・短期大学入試ガイダンスを実施する。	・併設大学・短大への進学 者 30%以上	・卒業生349名に対して併設大学・短大 への進学者数71名(20. 3%) (×) (昨年度 29.5%)	「SHIKAK E」の取り組 みを評価す る(○)
					世の中の動 きがあるに せよ、ここ までの減少 になぜ?とい う思いがあ る(×)
5 学園総合力の向上(学園ファミリー意識) 各校園の相互協力 尊重(職員 学生 生徒 園児)					

4 学校教育自己診断の結果

学校教育自己診断の結果
(1)学校運営
【教職員】
「建学の精神『感恩』が教職員によく理解され、日々の教育に活かしている」 91.6%
「教学理念『夢と志』が教職員によく理解され、日々の教育に活かしている」 80.6%
「玉手山学園「仕掛け」(SHIKAKE)を理解し、日々教育に活かしている」 61.1%
【保護者】
「建学の精神『感恩』を保護者はよく理解している」 3年:76.3%、2年:79.4%、1年:72.0%
「教学理念『夢と志』を保護者はよく理解している」 3年:78.0%、2年:82.0%、1年:77.2%
「玉手山学園で行われている「仕掛け」(SHIKAKE)」をよく理解している」 3年:39.7%、2年:37.6%、1年:57.3%
「本校のホームページ・Classi を保護者はよく見ている」 3年:78.4%、2年:75.8%、1年:78.9%
「本校では個人情報保護法の観点から子どもの個人情報管理について十分配慮がなされている」 3年:93.5%、2年:91.2%、1年:93.1%
「施設・設備は充実している」 3年:94.0%、2年:94.3%、1年:94.4%
(2)学習指導
【教職員】
「シラバスに従い計画的に学習指導を実施している」 91.7%
「各コースに応じた学習指導を行っている」 77.8%
「学習面について学力向上のために手厚い指導を行っている」 72.9%
【保護者】
「各コースに応じた学習指導を行っている」 3年:91.8%、2年:89.7%、1年:90.5%
「子どもは学習に対して意欲が高まっている」 3年:62.5%、2年:62.9%、1年:63.4%
(3)進路指導
【教職員】
「生徒が希望した進路におおむね進んでいる」 91.7%
「生徒に対する進路指導は、きめ細くなされている」 86.1%
「進路説明会等を通じて進路に関する情報を保護者に対してきめ細かく与えている」 75.0%
【保護者】
「子どもに対する進路指導は、きめ細くなされている」 3年:80.6%、2年:78.9%、1年:75.9%
「進路説明会等を通じて進路に関する情報が保護者に対してきめ細かく与えられている」 3年:78.9%、2年:76.3%、1年:79.7%
(4)生徒指導
【教職員】
「生徒指導において、家庭との緊密な連携ができている」 97.2%
「生徒に対して服装の身だしなみ、社会規範(マナー)の順守、挨拶の励行等の指導を日々行っている」 91.7%
「問題行動防止のための早期指導(個人面談、HR 指導、初期対応など)に学校全体で取り組んでいる」 80.6%%
「文化祭・体育祭等で担任は、生徒と適切に関わりを持ち、指導を行っている」 91.7%
「クラブ活動は、全般にわたり活発に行われ、クラブ顧問として十分に指導している」 80.6%
「生徒・保護者等の悩みに誠意をもって対応している」 97.2%
【保護者】
「生徒指導において、家庭との緊密な連携がなされている」 3年:75.4%、2年:70.1%、1年:69.4%
「本校は生徒に対して服装の身だしなみ、社会規範(マナー)の順守、挨拶の励行等の指導を行っている」 3年:93.5%、2年:91.8%、1年:91.4%
「学校行事について様々な工夫がなされている」 3年:87.9%、2年86.1%、1年:83.6%
「クラブ活動は全般にわたって活発に行われ、クラブ顧問は熱心に指導している」 3年:74.6%、2年:79.4%、1年:77.6%
「生徒は担任やクラブ顧問等に気軽に相談にのってもらうことができている」 3年:78.0%、2年:77.8%、1年:70.7%
「保護者は担任やクラブ顧問等に気軽に悩みの相談にのってもらうことができている」 3年:66.8%、2年:74.2%、1年:65.1%
(5)その他
【保護者】
「子どもをこの学校に入学させてよかった」 3年:88.8%、2年:85.6%、1年:84.9%

5 学校関係者評価委員会からの意見

【評価された内容】

- ・教学理念「夢と志」、教学姿勢(イメージツリー)については、保護者としても共感ができ、素晴らしい。
- ・「起立性調節障害」や「難病指定の病気」に対する欠席日数への配慮についての対応は、ありがたい。
- ・将来へのミスマッチをなくすために、進路づくりの満足度を上げていくことにシフトしたことに好感がもてる。
- ・生徒のために、体験型の総合的探究活動や大短幼とのコラボなど様々な取り組みを、時代の変化に合わせて対応されているなど思う。
- ・入学生が300名以上を維持されていることが、先生方の日々の活動が評価されている結果だと思う。
- ・スマホ歩きなどの携帯を触りながら登下校する生徒数は、本当に少なくなっているように思う。
- ・けがをされた高齢者や体調不良の女性を介抱するなど、困っている方々に進んで手を差し伸べる本校生徒の姿を、大変誇りに思う。
- ・今年度も高大連携授業で、高校在学中に2名の生徒が大学の単位を取得したことは、素晴らしい。
- ・昨年度同様、先生方が誠実に生徒の対応をされていることが一番の評価である。

【改善が必要な内容】

- ・二年連続で卒業率の低下は看過できない問題であり、強く危惧している。(低下を阻止するための対策の効果が出てくることに期待する。)
- ・ICT 整備・ICT スキルも大切なことだと思いますが、外国ではタブレットを使わずに紙面中心の授業になっていることをニュース等で耳にする。本校教育に則した授業のあり方を引き続きお願いしたい。
- ・昨年度よりも授業アンケート評価が微増している。80%まであと少し。日々教えることだけでなく様々な出来事に対応しておられる先生方には頭が下がる思いである。
- ・中学生や中学生の保護者、もちろん本校の在校生、その保護者に向けての HP やインスタグラムだと思います。その中でも一番は、在校生・その保護者が大事。学校が持っている保護者・生徒との連絡ツール(Classi など)を活用し、本校の良さが伝わる情報をもっとたくさん発信してみてもどうか。

【その他】

- ・クラブ活動の顧問、放課後の進学補講担当者など世の中の動向の中で、本校がどのように変化していくのか気になる。
- ・都会にない柏原市の良さ(ごみごみしない自然が多く残り、ある意味落ちついた風土で、映画のロケ地にも採用されている場所など)を知ってもらい、その中でも唯一無二の存在となり、安定的した学校になってもらいたい。

貴重な意見を参考にさせて頂き、保護者や地域の方々の協力も得ながら、教職員全員で課題改善に向け努力して取り組んでいきたい。